女性を議会へ

PARITÉ 50/50

議員定数削減反対の声明

2026年11月9日

議員定数削減に、心から、強く、強く、反対します。

自民党と維新の会は、連立合意書に1割を目標とする衆議院定数削減を盛り込み、それを踏まえて両党は先の通常国会で1年以内に衆議院選挙制度協議会において削減方法についての結論を得られなければ、比例代表の定数を45議席削減するという法案を提出しました。現在これは継続審議となっていますが、野党の合意を取り付けるために、自民党は31議席削減案に議席配分方式（修正サンラグ式）や統一名簿方式を付け加える案を提示し、国民民主党が賛成に回ったことで、比例定数削減は今国会で実現しかねない情勢です。

パリテ・キャンペーン実行委員会は、比例定数削減に真っ向から反対の意見を表明します。

第一に、決め方がめちゃくちゃです。議員定数と、小選挙区・比例代表の議席バランスという選挙制度の根幹を、すでに小選挙区制の作用で議席が大幅に水増しされている与党を中心とした一部政党だけで拙速に決定することに、異議を申し立てます。自民党・維新の会・国民民主党が合意した案を2026年総選挙の結果に当てはめると、自民党と維新の会の議席占有率はさらに増え、国民民主党はほぼ変わらないと推計されています。「身を切る」といいながら、その実態は「身を肥やす」お手盛りの内容。このような姑息なやり方を許すわけにはいきません。

第二に、そもそも日本の国会議員は少な過ぎます。自民党や国民民主党は人口減に応じて議席を減らすべきだと主張していますが、帝国議会開設時の日本の人口は約3,900万人でしたが、衆議院の定数は300、人口100万人あたりの衆議院議員数は7.7人でした。現在は、約1億2,671万人の人口で衆議院定数は465、人口100万人あたり3.7人です。参議院議員を足したとしても5.7人で、OECD加盟国の平均27.9人より遥かに少ないのです。民主主義とは到底言えなかった帝国議会より現在の国会の方が国会議員が少ないことを、むしろ問題視すべきではないでしょうか。

最後になりますが、決して軽視できないこととして、比例代表の定数削減は、女性議員を減らすことに繋がります。世界的にも、日本でも、女性をはじめマイノリティは比例代表で当選する可能性が高いからです。パリテ・キャンペーン実行委員会は女性参政権行使70周年の2016年から、女性議員を倍増することをめざし活動を続けてきました。2018年には政治分野における男女共同参画の推進に関する法律（候補者男女均等法）を全会一致で成立させ、全政党が女性議員を増やすことに取り組んできたはずです。女性議員が減ることが明らかな比例のみの削減は、候補者男女均等法の趣旨に反するものです。このような改悪案を、私たちは決して認めるわけにはいきません。

日本では国会議員があまりに少ないため、私たち主権者は国会議員を身近に感じることができず、政治への関心を薄め、政治不信は高まるばかりです。政治への信頼を回復するために、主権者の様々な声を聞き届け、政策に繋げる真っ当な国会議員を増やすべきなのです。

以上の理由から、民主主義をさらに弱体化させ、女性の政治参画を阻害する比例定数削減に反対します。

パリテ・キャンペーン実行委員会